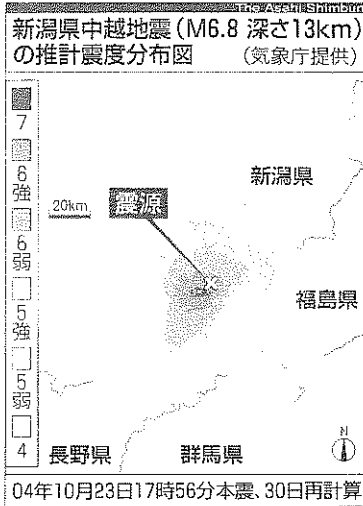


新潟中越地震

川口町は震度7

本23日の震度計で初記録

新潟中越地震で、23日午後5時56分の最初の地震(マグニチュード6.8)の際、同県川口町で震度7の揺れを観測していたことが30日わかった。同日午後、震度計の電源や回線が回復し、データが気象庁に入った。同地震の最大の揺れはこれまで、小千谷市などの震度6強とされていた。震度7が確認されたのは95年1月の阪神大震災以来。96年以降は震度計で揺れを測る計測震度を使っているが、計測震度で震度7が観測されたのは初めて。この地震では30日夕現在、約7万6600人が避難所での生活を強いられている。



04年10月23日17時56分本震、30日再計算

川口町の震度計は、町の記録が残っていた。役場の外に設置されていた。23日午後5時56分2秒に震度7を観測したが、「停電中 エラー」

の記録が残っていた。同町などによると、震度計は予備電源があり停電しても観測データは残るが、衛星回線を通じてデータを送る機能が停電で止まったため、データが県、気象庁に届かなかつたとみられる。30日午後、役場の電気が復旧し、観測結果がわかった。本震は震度7(計測震度6.5)、午後6時34分の余震(M6.5)で震度6強(計測震度6.2)だった。揺れの強さを示す加速度は午後6時34分の余震で、2.515ガル。阪神

大震災の8.18ガルを大幅に上回り、これまで国内の地震で観測された最大値2037ガル(03年7月の宮城県北部地震)を上回った。同庁は各地の揺れや地盤などから震度計がない地域の震度も推計しており、川口町の震度7のデータを入れた結果、同町と小千谷市の一部で震度7となった。山古志村の震度計の観

測結果も入っていないが、同町のデータは地震の激しい揺れで機械が破損し、新たなデータが入ることはない。一方、上越新幹線は30日、新潟-燕三条間でも運転が再開されたが、長岡-越後湯沢間では復旧作業に取りかかれない場所もある。国交省の蓮実進副大臣は同日、トンネル被害について、「山鳴りが確認され、危険なので調査に時間がかかる」と述べ、運転再開の見通しは困難との認識を示した。

最近10年間の震度6以上の主な地震

発生年月日	地震名	震度	被害
94年12月28日	三陸はるか沖	6	死者3人、負傷者788人
95年1月17日	阪神・淡路	7	死者6433人、負傷者4万超
97年5月13日	鹿児島県薩摩地方	6弱	負傷者74人
98年9月3日	岩手県内陸北部	6弱	負傷者9人
00年7月1日	新島・神津島近海	6弱	死者1人
00年10月6日	鳥取県西部	6強	負傷者182人
01年3月24日	芸予	6弱	死者2人、負傷者288人
03年5月26日	宮城県沖	6弱	負傷者174人
03年7月26日	宮城県北部	6強	負傷者677人
03年9月26日	十勝沖	6弱	負傷者849人、不明2人

(気象庁ホームページなどから)

震度階級	計測震度	震度のめやす
7	7	●自分の意思で動けない ●耐震性の高い建物でも傾いたり、大きく破壊したりするものがある ●大きな地割れや山崩れが発生する
6強	6.5	●立ってはいられず、はわないと動けない ●家具のほとんどが移動、転倒する
6弱	6.0	●耐震性の低い住宅は倒壊するものが多い ●耐震性の高い住宅でも壁などの破損がかなりある
6	6.0	●立っていることが難しい ●多くの家具が移動、転倒 ●かなりの建物の窓ガラスなどが壊れる ●耐震性の低い住宅は倒壊するものがある ●地割れや山崩れが発生することがある
5強	5.5	●非常な恐怖感。多くの人が行動に支障を感じる ●タンスなど重い家具が倒れることがある ●多くの壁石が倒れる。車の運転が困難
5弱	5.0	●多くの人が身の安全を図ろうとする ●食器や本が棚から落ち、家具が動くことがある ●窓ガラスが割れることがある